

2004.03.03：都市整備建設委員会

委員長

次に、第1号請願であります。

それでは、第1号請願、水資源の循環型再利用に関する件について審査を行います。

本請願について、紹介議員より説明をお願いいたします。

池田友信紹介議員

ただいま上程されました第1号請願の水資源の循環型再利用に関する件について、紹介議員となっております11名を代表しまして、私より請願の内容を御説明申し上げたいと思います。

まず、請願者の方々は、仙台市の河川愛護会に参加されます16団体の代表者であります。仙台市域内の河川の美化の浄化運動を実践しておられる方々でありまして、請願の趣旨としましては、記載のように仙台市内の中小河川の水不足によって破壊をされております自然環境の復元を願うものであります。

請願の理由につきましては記載のとおりであります。河川を取り巻く、いわば条件といいますか背景が自然の条件と言いますか、降水量関係については余り大きな変化はありませんけれども、社会的条件背景は、人口、産業や土地の利用によって大きな変化がありまして、それによりまして水利用あるいは水の環境変化があつて、仙台市の河川の自然環境が悪化し破壊されているという状況にかんがみまして、そこに記載をしておりますように、現在の水資源の使い捨てをやめて水の再利用ということを促進すべきではないかということと、本来、川を潤していたはずの自然環境の貴重な水を、ダムの水の需要調整によって河川に流入を復元、回復するというふうなことを願っているものであります。浄化処理された水資源を再利用するという中水道というか、飲み水は上水ですが、使った生活雑排水は下水であります。その際、利用する中水道という事業をそれぞれの自治体でこれから起こすべきではないかと、こういうことで河川流量回復の政策ということをぜひ議会においても取り上げていただきたいという願いでありまして、ぜひその辺について委員各位の御理解と御協力を賜りますようお願いしまして、請願の説明にかえたいと思います。

委員長

ただいま紹介議員より御説明いただきましたが、皆様から紹介議員に対し質問等はございませんか。

#### 渡辺芳雄委員

ダムをつくるときにはいろいろと、もともと広瀬川の水なんかは満々として30年代先まであったわけですがけれども、その後大倉ダムや釜房ダムがつくられることによって、だんだんと広瀬川の水も名取川の水も少なくなったと見受けられます。そういった点でこの中水道の事業については、私も賛意を表すところでございますけれども、このダムの利用につきましては、相当慎重に期さなければならぬのではないかとこういう点もございまして、その辺のところお調べしたのかどうかお尋ねしたい。

#### 池田友信紹介議員

ただいま、ダムについての水の利用についてであります。ダムはそれぞれの目的があつて設置して、水利権というものがあつて、各ダムの使用についても規制があります。現在、河川の干上がった状況にして放流するというのは、よほどの判断と見解がないとできないような状況があります。

例えば、14年に広瀬川で起きた広瀬川の水が干上がって大量の魚が酸欠して死んだという記事が出ておりますが、そういう状況を考えますと、ダムの水の使い方の問題の中に河川に還元するという点に対する水量のキャパシティーとか、そういうものを先ほど言われた再利用と中水道の利用によって、そしてダムが本来使えるもの以外に還元できるように、そういうふうな政策として確立することが肝要ではないかということが、今回の中水道の政策の視点でありまして、そういう意味ではこれから大いに中水道を還元することによって、水の需要のキャパシティー、川に還元する部分がふえるという形にしないと、川は非常に飲み水あるいは工業用水に限定されてしまうという形になるわけがあります。ダムがあふれると放出することができますけれども、あふれない以上、これは目的とされた利用にしか使われていませんので、そういうことについての再利用に対する幅を広げてまいりたいということです。

#### 渡辺芳雄委員

懇切丁寧な御説明ありがとうございました。

私も広瀬川のそばに住んでいるわけですがけれども、確かに今お話があるように、ぜひそうあればいいなと思っておりますけれども、大雨や洪水等があるとダムを一気に放流するときにございまして、恐らくこういう調整はできるかと思うんですが、今度は逆にダムの湖底にある汚泥、土がすごい粒になって、そして黄色い水になって広瀬川、名取川に流れる。これとは関係ない気がするけれども、調整をする場合に相当のダム管理者とのあれが必要ではないかなと懸念もするわけですが、その辺の所感を。

#### 池田友信紹介議員

仙台市の中に七北田ダム、大倉ダム、青下ダム、釜房ダムがありますが、当時設置されたダムの水量というのは、土砂でどんどん埋まっていきますからやはり少なくなっていくわけです。これは上水道と工業用水の方に使われる目的でありますけれども、土砂が埋まるほど水量の目的が非常に難しくなっていくと、ましてやその中で川に還元するということはなおさらなくなっているわけです。こういう写真をごらんいただきたいと思うんですが、これは七北川の堰でありますけれども、これは本来魚道として使う堰の水が干上がって魚道に使用できないような、こういう状況に還元する水というのがダムから放出できないんですね。これは貴重な上水道と工業用水しか使えませんから、したがってダムのキャパシティもさることながら、本来使っている水を再利用という方向にしていかないと、ダムに頼る状況だけではだめだと思うんです。したがって、ダムから放出された水を単に使ったら海に流すのではなく、リサイクルすることによって川にも還元できるというシステム、政策をこれから各自治体で持つべきだと、こういうことが河川愛護会の主張でありまして、我々としても考えなければいけないことであると思いますので、その辺をひとつ御理解いただきたいと思います。

#### 菊地昭一委員

一点だけ、趣旨には賛成ですが、県と市での取り組みとなっているんですが、他の県とか何かで、こういう中水道事業を実際に行っているところというのはあるんですか。

#### 池田友信紹介議員

例えば、九州などは渇水のひどい状況を相当に体験しています。中水道という形とか、例えば一たんプールした水、庁舎内の水洗トイレは、水道水でなくてもいいわけです。既にそういうものを行っているところもあります。渇水状況のひどい都市の中ではそうですが、今回は仙台市内の河川愛護団体であります。本来ですと宮城県も考えるべきで、仙台市域内の河川愛護団体で仙台市と県で考えて欲しいということで、決して先進ではありませんので、ひとつ取り組んでいただきたいということです。